

国際交流事業の運営

名古屋市立大学 岡野衛士

日本金融学会は中国金融学会、韓国金融学会との学術交流を中心に国際交流事業を推進してきた。ここでは両学会との学術交流、特に 2013 年以降の学術交流について触れる。

韓国金融学会とは 2011 年 12 月に締結された学術交流協定に基づき学術交流がなされている。一部例外があるものの、毎年春季に日本金融学会は 3 名の会員を韓国金融学会年次学術大会に派遣し研究を報告し、秋季には韓国金融学会が 3 名の会員を日本金融学会全国大会に派遣し研究を報告する。報告テーマは日本金融学会会員のそれは金融論全般と多岐にわたる一方、韓国金融学会会員のそれはファイナンスを中心としているように見受けられる。派遣された両学会の会員の報告に対しては相手方学会会員が務める討論者が付され、報告の後に活発な議論がなされる。報告の後、派遣された会員は相手方学会主催のディナーに招待され、会員相互において懇親を深めている。私事で大変恐縮ながら私も派遣された一人であり、2016 年に 6 月に濟州島で開かれた韓国金融学会年次学術大会に派遣され、そこで研究報告をした後に大変な歓待を受けた。

先にも述べたように毎年相互に会員を派遣して学術交流を行っているものの例外があった。例外が生じた原因は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大であり、2020 年度は学術交流そのものを断念した。2021 年度はなんとかオンラインでの学術交流にとりつけ、それぞれの学会の会員は相手方学会の全国大会(あるいは学術大会)へオンラインで参加することになった。2022 年度は辛くも 2023 年 1 月に韓国金融学会から会員を派遣して頂くことになり、それまでのように全国大会の 1 セッションとしてではなく、JSME-KMFA Joint Workshop として全国大会とは独立して研究報告の場を設け学術交流する運びとなった。2023 年度は COVID-19 感染拡大に伴う制限解除をうけて 6 月には日本金融学会から韓国金融学会年次学術大会へ会員を派遣し、2024 年 1 月には韓国金融学会から会員を JSME-KMFA Joint Workshop に派遣して頂き学術交流した。

日本金融学会、韓国金融学会相互の全国大会(年次学術大会)への会員派遣の加え、2017 年 3 月、2018 年 3 月には International Symposium on Money and Finance を開催し、やはり相互に会員を派遣し研究報告を通じて学術交流を図った。

中国金融学会との学術交流は 1998 年 4 月に始まる。2013 年 12 月には中国人民銀行にて中国金融学会と日本金融学会の両者は今後もさらなる学術交流に努めていくことが確認された。ただし、残念ながらその後具体的な学術交流は行われていない。中国金融学会との学術交流の推進が日本金融学会にとって有益であることは明らかであり、中国金融学会との学術交流の再開について議論をする必要がある。

国際交流事業には多くの会員が関わっているが、国際交流担当の常任理事として、2014 年度から 2017 年度までは佐々木百合先生(明治学院大学)、2018 年度から 2021 年度ま

では福田慎一先生（東京大学、2021年度は副会長として国際交流を担当）が関わり、主に韓国金融学会との学術交流に貢献された。2022年度からは不肖岡野衛士が国際交流担当理事として福田慎一先生に助けながら国際交流事業に関わっている。2013年度は川波洋一先生（下関市立大学）に中国金融学会との学術交流にお骨折り頂いた。

最後に、「若手研究者の金融セミナー」の開催について触れておく。このセミナーは主として修士課程修了後間のない研究者を志望する博士後期課程在学者に研究報告の機会を与えることを目的としており、福田慎一先生のイニシアチブで2021年1月に第1回が開催された。2023年1月にはその第2回が韓国金融学会との学術交流の場である JSME-KMFA Joint Workshop と同時に開催され、韓国金融学会会員と日本の若手研究者とのよい国際交流の場となった。今後は2年に1回程度、JSME-KMFA Joint Workshop と同時に開催されることを見込んでおり、若手研究者の金融セミナーが韓国金融学会会員と日本の若手研究者との学術交流の場となることから、今後、本セミナーが日本金融学会の国際交流事業を補完することが期待される。